

JAグループ鳥取自己改革推進レポート（11月号）

1. JAグループ鳥取の取り組み

① 第50回JA鳥取県大会を開催

JAグループ鳥取は11月12日、第50回JA鳥取県大会を開いた。組合員や友誼団体会員、JA役職員など約160人が出席した。オンラインでも配信し、約200人がウェブで参加した。

大会スローガンには「協同の力による持続可能な農業・地域の未来づくり～不断のJA自己改革でさらなる進化～」を掲げた。10年後のJAグループ鳥取の「3つのめざす姿」（①持続可能な鳥取県農業の実現 ②豊かでくらしやすい地域共生社会の実現 ③協同組合としての役割発揮）に向かうために、令和4年度からの3年間、5つの取り組みの柱（①持続可能な農業基盤づくり ②持続可能な地域・組織基盤づくり ③「持続可能な農業・地域・組織基盤の確立」を支えるJAの土台づくり ④協同組合としての役割発揮を支える人づくり ⑤「食」「農」「地域」「JA」にかかる国民理解の醸成）を決議した。



② コロナ禍で困窮する学生をサポート 鳥取県協同組合連絡協議会

JAグループ鳥取、生協、漁協、森林組合、中国労金、ワーカーズコープで組織する鳥取県協同組合連絡協議会は11月8日、鳥取市で県内4つの大学（鳥取大学、鳥取環境大学、鳥取短期大学、鳥取看護大学）へ生活支援物資を提供した。JA鳥取県中央会で同協議会の栗原会長が鳥取環境大学江崎学長に目録を手渡した。



協同組合連携で、次世代を担う県内大学生の生活をサポートし、持続的な地域教育の環境づくりに貢献する。昨年はJAグループ鳥取と生協が生活物資を支援したが、今年度は協同組合間の連携を強化し、漁協や森林組合なども協力し、学生らに支援物資を贈呈した。

栗原会長は「県内特産品で学生生活を元気に過ごしてもらい、地域に還元して欲しい」とあいさつした。江崎学長は「心温まる支援に感謝する。地域で学んでいることを実感し、地域に愛着を持つ学生が増えて欲しい」と謝辞を述べた。

支援物資として、県ブランド米「星空舞」の2kg袋や大山乳業農協の白バラ大山ミルクあめ、レトルトカレーなど計7品目、385人分を贈った。

③ らっきょう産地・援農ボランティア農業体験ツアーを実施

J Aグループ鳥取農業労働力支援協議会（事務局：J A鳥取県中央会）とJ A鳥取いなばは11月6日、県農林水産部と連携し、鳥取市福部町において『らっきょう産地・援農ボランティア農業体験ツアー』を初めて実施した。

当日は鳥取大学農学部の学生、県職員、J A鳥取いなば人材紹介センター担当者、J A中央会職員ら42名が参加した。午前はらっきょう畑で収量増に関係する除草作業に従事、午後からは梨園で造成のための雑木撤去を行った。

また、生産者やJ A職員らが栽培の歴史や栽培方法、G I取得の経過やその効果などを説明し、参加者は熱心に学んでいた。

終了後、鳥取大学の担当教授らは「参加者の反応も良く、手ごたえを感じている。今後、授業の一環として組み込んでいけるよう仕組みづくりについてJ Aグループと検討していきたい」と話した。



④ 県中学校駅伝 特産贈り応援

J Aグループ鳥取は11月11日、県中学校体育連盟が鳥取市で開いた県中学校駅伝競走大会に協賛し、県産米など県内農産物の贈呈を通じて次代を担う若者を応援した。

大会には男女各34チームが出場し、J A鳥取県中央会の谷垣専務が女子の部のスターターを務めた。

男女優勝チームに県ブランド米「星空舞」や決勝ゴールテープを贈呈し、生徒数150人以内で優勝を除く最高位の学校に「わかば賞」として梨「王秋」を贈った。

当日の様子は12月11日午後3時55分～午後4時55分に、日本海テレビにて放送される予定。



⑤ 鳥取「わったいな」 地域に愛され祝10周年

(株)食のみやこ鳥取が運営する地場産プラザ「わったいな」は11月20日、鳥取市で創業10周年記念式典を開いた。生産者や来店者などに感謝を込め、飛躍を誓った。

式には平井県知事や舞立参院議員らの他、地元の園児も出席し10周年を祝った。また、J A鳥取いなば青壮年部や同J A女性会鳥取支部が餅をつけて来場者に振る舞い、イベントを盛り上げた。

J A鳥取県中央会会長で同社の栗原社長は「生産者や歴代の社長、関係機関の協力で成長できた。地域に愛される直売所として一層の飛躍を目指す」と抱負を述べた。



2. JA全農とっどりの取り組み

妖怪神社へ輝太郎柿を奉納

10月6日、境港市の妖怪神社へ「輝太郎」柿の奉納式を執り行った。

その後、観光客等に向けて柿の配布も行い、報道関係者の取材とあわせ、「輝太郎」柿の魅力を県内外にPRした。



3. JA鳥取信連の取り組み

メイン強化先への訪問活動の取り組みについて

JAバンク鳥取では、将来にわたり関係を強化・再構築すべき農業者（個人・法人）をメイン強化先と位置付け、営農部門と信用部門（必要に応じて信連農業金融センター）と連携・同行訪問を行っている。

訪問活動では、農業者の現状・経営上の課題・JAへの意見要望や競合他社の動向等をヒアリングし、メイン強化先の営農改善・フォローアップを図るほか、顧客の資金等ニーズの的確な把握、アンケート調査実施と結果の活用により、顧客満足（CS）の向上を図ることとしている。

令和3年度もメイン強化先に対し年2回の訪問を基本としている。令和3年度上半期実績では、県下のメイン強化先237先のうち139先を訪問し、下半期においては、アンケート調査の実施と訪問により関係の強化を図っていく。

4. JA共済連鳥取の取り組み

ホテルモナーク鳥取が提供する「地産地消メニュー」の充実化

JA共済では、ホテルモナーク鳥取において、地域貢献活動の一環として県産食材を使用した地産地消料理を企画・販売している。ホテルモナーク鳥取では、「和食会席料理」、「鉄板焼きコース」を販売しており、地産地消メニューの充実化を図っている。

なお、ホテルモナーク鳥取同様、地産地消メニューを提供していた羽衣については11月30日をもって閉館する。多くの皆さまの長年にわたるご支援・ご厚情に心から感謝を申しあげる。

MONARQUE
鳥取を食す
鳥取和牛 × フレンチ
地産地消 四季彩
期間限定
2021年9月29日
~2022年3月31日

旬の食材は味も栄養価も最も高い状態で収穫されるため、「音も心も身体に良い」と言われています。そこでモナークでは、鳥取で採れた旬の食材をふんだんに盛り込んだ地産地消特別プラン「四季彩」を採用いたしました。

音も香りも楽しめる！
鳥取和牛をシェフが目の前で焼き上げる「鉄板焼きコース」

鳥取を助けたら是非食べたい！
「鳥取和牛」をはじめ、旨味が凝縮された「もさえび」や「のど根」などの高級魚、鳥取ならではの人気の食材が目白押し！

雅 -Miyabi- おひとり様 12,100円 (税別)
先付け、小使い、鳴門巻 (のど根の焼き炙り唐揚げ)、産直、煮物、焼き物、揚げ物、会席 (鳥取県産空母、蟹の焼き込みご飯)、餅、刺身、魚の佃煮、木菓子 (3種盛り合わせ)

緑 -Enishi- おひとり様 7,300円 (税別)
先付け、小使い、湯里 (味噌)、煮物、焼き物 (牛へちまと鳥取県産野菜の陶板焼き)、揚げ物、会席 (鳥取県産空母：蟹の焼き込みご飯)、目め飯、春の餅 (白)、木菓子 (3種盛り合わせ)

ホテルモナーク鳥取 地産地消メニュー
『鉄板焼きコース』『和食会席料理』

以上